

令和6年度

自己評価報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和7年4月

公益財団法人 中国四国酪農大学校

## 1. 学校の教育目標

本校は、実践教育による確かな技術と経営感覚に富む酪農の担い手の養成と、酪農を通じて地域社会への貢献ができる健全にして良識ある人材の育成をおこなうこととし、併せて、生命、食、環境を育む酪農の社会的意義や役割の普及啓発を通じて、酪農業の健全な発展に寄与することを目的とする。

教育理念

- ①経営感覚と確かな技術を持った人材の育成
- ②酪農を通じて地域に貢献できる人材の育成
- ③社会人としての基礎力を備えた人材の育成

## 2. 令和6年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①意欲ある学生の確保(情報発信・県内外学校訪問・オープンキャンパス・学校説明会)
- ②学生支援の充実(国修学支援制度の認定・関係機関との連携)
- ③運営体制の強化(関係機関との連携強化・人員の確保・環境整備)
- ④酪農フィールド研修の充実(社会人)

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

回答者：13人、職員数：13人、回答率：100%

(評価：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

### (1) . 教育理念・目標

3.2

評価項目	自己評価平均
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3.5
・ 学校における職業教育の特色は明確か	3.5
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.3
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	2.6
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.0

#### ① 現状・達成実績

酪農大学校定款及び教育規程に教育目的が定められており、教育理念については、大学校要覧やホームページに示している。また、オープンキャンパスや学校説明会において教育目的や教育理念の説明をしている。

中期運営計画を策定し、その中で将来構想を定めている。

#### ② 課題と今後の改善方策

業界を取り巻く環境が大きく変化しており、業界からの情報を的確に捉えて育成人材像を定めていく必要がある。

学校の理念・目的・特色・将来構想については、常に職員間でしっかりと共有し、学生や保護者に周知するとともに外部へも積極的に発信していく。

将来構想については、関係機関の理解と協力を得ながら実現化を進めていく。

#### ③ 特記事項

## (2) . 学校運営

3.0

評価項目	自己評価
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.0
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.0
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.0
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.2
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.2
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.0
・ 教育活動等に関する情報発信が適切になされているか	2.6

### ① 現状・達成実績

運営方針・事業計画は、理事会で審議し決定している。また、中期運営計画を策定し、計画的な運営を進めている。

運営組織や意志決定に係る規則、人事・給与に関する規程、教務・財務等に関する諸規程は整備されており、意志決定は理事会において行っている。

教育活動等の情報発信については、ホームページに加えてSNSの活用を開始した。

### ② 課題と今後の改善方策

定年延長に向けた規程の整備が必要となっている。

情報発信については、ホームページのリニューアルやSNSを活用した細やかな情報提供に心がける。

### ③ 特記事項

### (3) . 教育活動

2.7

評価項目	自己評価
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	2.8
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.5
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	2.7
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	2.7
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.8
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.2
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3.2
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.2
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	2.8
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	2.8
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	2.5
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	2.5
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.5
・ 職員の指導能力向上開発のための研修等が行われているか	2.2

#### ① 現状・達成実績

外部関係者による学校評価を実施し、評価内容を公表している。

農作業安全やスマート農業に関する研修等、関係機関と連携して新たな教育活動に取り組んでいる。また、肉用牛関連カリキュラムの充実について関係者との協議を進めている。

職員の欠員補充のために2名の採用を行ったが、更なる職員採用と職員のスキルアップに取り組む必要がある。

#### ② 課題と今後の改善方策

自己評価および外部評価の結果に基づいて改善対策を進めていく。

令和7年度から岡山県等と連携して新たな肉用牛関連カリキュラムを開始する。

職員の求人活動を継続するとともに、関係機関との連携強化により教育内容の充実と人材の確保に努めるとともに各職員のスキルアップに努める。

学生のカラーが変化してきており、学生の成績評価手法について検討が必要。

#### ③ 特記事項

#### (4) . 学修成果

2.5

評価項目	自己評価
・ 就農・就職率の向上が図られているか	3.2
・ 資格取得率の向上が図られているか	2.9
・ 退学率の低減が図られているか	1.6
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.5
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	2.5

##### ① 現状・達成実績

就職率・資格取得率ともに高いレベルを維持している。

R6年度の退学率は8.8%（45名中4名）、R5年度退学率8.8%（45名中4名）。  
退学の理由として全寮制による集団生活への不適応が増加している。

研修先農場での学生評価を踏まえた教育活動に取り組んでいる。  
また、卒業生本人や酪農協等からの情報把握に努めている。

##### ② 課題と今後の改善方策

寮生活を含めて生活全般について、学生からの相談対応や指導体制の強化に努める。なお、対応については部署横断的に全職員で対応する。

生活面でのストレス等から退学する学生が増加しており、カウンセラーによる外部支援体制を検討する必要がある。

関係機関とも連携して卒業後のフォローアップ体制を強化する。

##### ③ 特記事項

(5) . 学生支援

2.7

評価項目	自己評価
・ 就農・就職に関する進路支援体制は整備されているか	2.8
・ 進路選択・決定の早期意識付けができていますか	2.7
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	2.2
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	2.5
・ 保護者と適切に連携しているか	2.6
・ 卒業生への支援体制はあるか	2.5
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.9

① 現状・達成実績

学生に対する経済的支援については、就農準備資金や日本学生支援機構の貸与型奨学金で対応しており、さらに国の高等教育の就学支援制度についても認定校となった。

雇用就農を希望する学生が多く、ハローワークの協力を得て就職指導を行っている。

学生の健康管理は年1回の定期健診を実施しており、教育活動と生活環境については個別面談の他Googleフォームを活用して相談や意見聴取に努めている。

② 課題と今後の改善方策

寮生活を含めて生活全般について、学生からの相談対応や指導体制の強化に努める。なお、対応については部署横断的に全職員で対応する。

生活面でのストレス等から退学する学生が増加しており、カウンセラーによる外部支援体制を検討する必要がある。

関係機関とも連携して卒業後のフォローアップ体制を強化する。

③ 特記事項

(6) . 教育環境

2.7

評価項目	自己評価
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.2
・ 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	3.0
・ 防災に対する体制は整備されているか	2.9

① 現状・達成実績

施設・設備の老朽化が進んでおり、厳しい財務状況の中ではあるが、R6年度に制度資金を活用して施設の修繕や改修を行った。

分娩監視カメラや生体情報収集システム（Umotion）、哺乳ロボットなどスマート機器の導入を計画的に進めている。

真庭市と県の協力の下、第二牧場へのバイオマス発電施設の整備計画を進めている。

消防署の協力を得て防災訓練を毎年実施している。

② 課題と今後の改善方策

引き続き老朽化した施設・設備の修繕を進める必要がある。

将来構想に沿った施設整備と機械導入について、関係機関と連携して具体的な計画を策定する。

地震など大規模な災害を想定した防災マニュアルの策定が必要。

③ 特記事項

(7) . 学生の受入れ募集

3.0

評価項目	自己評価
・ 意欲ある学生が確保できているか。	2.8
・ 学生募集活動(学校訪問・オープンキャンパス等)は、適正に行われているか	3.2
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.0
・ 農業高校との連携は図れているか。	3.1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	3.0

① 現状・達成実績

令和7年度については、13名が応募し、12名が合格、辞退者1名で11名が入学した。

学生確保のためオープンキャンパス（4回）と学校説明会（2回）を開催した。  
また例年どおり広範囲に学校訪問や資料配付などの学生募集活動を行ったが、応募者数も入学者数も大幅に減少した。  
県内外の農業高校との情報共有に努めるとともに、各種業界誌等に学校紹介の記事を掲載し、学校のPRに努めている。

② 課題と今後の改善方策

引き続きオープンキャンパスや学校訪問、県内外の農業高校との連携強化により学生募集活動に力を入れていく。

学生募集の範囲を通信制高校へも広げる。

学生間の意欲に格差が生じており、このことが退学者の増加にもつながっており、対応が必要となっている。

物価高騰の中、学納金についても適正額を検討する必要がある。

③ 特記事項

(8) . 財務

3.0

評価項目	自己評価
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.2
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.5
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	3.6
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	3.5

① 現状・達成実績

飼料や資材価格の高止まり、円安等により厳しい財務状況が続いている。

会計監査は毎月税理士事務所による監査を実施し、毎年度監事による監査を受け、適正に実施している。

財務情報の公開は、専修学校の情報公開ガイドラインによりホームページで公開している。

牧場運営については、飼養管理や衛生管理の徹底により収益性の向上に努めているが、コスト上昇分を補えていない。また、老朽化施設への対応も不十分で効率が悪い。

フィールド研修の受入を拡大するなど、限られた人員の中で最大限の事業展開に務めている。

② 課題と今後の改善方策

将来構想について情報発信を積極的に行い、関係機関等の賛同を得て外部からの支援体制を構築していく。

③ 特記事項

R7.4から公益法人会計基準の見直しがあり、会計ソフトの変更が必要である。

R8年度には外部理事・監事の導入が必要である。

(9) . 法令等の遵守

3.4

評価項目	自己評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.5
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.5
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.1
・ 自己評価結果を公開しているか	3.6

① 現状・達成実績

自己評価結果については、学校関係者による外部評価を経て公表している。

② 課題と今後の改善方策

課題と改善策を明確にして職員間で共有し、改善に向けて一体的な取組が必要。

③ 特記事項

評価項目	自己評価
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.5
・ 地域・社会（関連業界）に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	2.9

## ① 現状・達成実績

ニーズに即して社会人(全国酪農業協同組合連合会、オハヨー乳業他酪農関連団体) 向けの酪農フィールド研修を実施している。

岡山県家畜人工授精講習会・受精卵移植講習会、削蹄認定講習会、視察等の受入れを実施している。

酪農教育ファームとして、小中学生等を対象とした搾乳体験など理解醸成活動に取り組んでいる。また、団体が実施する理解醸成活動にボランティアとして参加している。

蒜山酪農協が取り組むA2ミルク生産農場としての取組など、地域のジャージー酪農振興や観光振興に貢献している。

## ② 課題と今後の改善方策

地元自治体である真庭市と連携して、学生のボランティア活動の推進を図るとともに、学校として地域活性化に向けた取組の充実強化を図る。

消費者に対する酪農の理解醸成活動は益々重要となってくることから、理解醸成活動への学生の参加を促していく。

A2ミルク生産のためにA1牛を淘汰したことから生産性が大幅に低下しており、生産基盤の回復に取り組んでいる。

## ③ 特記事項

## 4. 令和7年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①意欲ある学生の確保(情報発信・カリキュラムの充実・オープンキャンパス・学校説明会)
- ②学生支援の充実(学習面と生活面での支援・相談対応の強化・関係機関との連携)
- ③運営体制の強化(関係機関との連携強化・人員の確保とスキルアップ)
- ④酪農フィールド研修、酪農教育ファーム活動及び地域貢献活動の充実

## 5. 自己評価委員会の開催

令和7年4月23日

自己評価委員名簿

委員長	校長	菱川 雅弘
委員	副校長	串田 晴彦
〃	教務課長	関 哲生
〃	第2牧場長	芦田 草太
〃	総務係長	有富 英美